

特講・社会福祉学 5 (社会福祉士国家試験対策講座)	単位数	履修方法	配当学年
	1 単位	R	4年
科目コード	DT5205	担当教員	小野 芳秀

■履修上の注意

- 1) 本科目の履修方法は「**R 科目**」で、自宅学習（模擬小テスト学習）による受講のみとなります。
- 2) 「特講・社会福祉学 5」と「特講・社会福祉学 6」は模擬小テストに共通の内容が含まれるため、2科目を同時に履修登録・単位修得することはできません。
- 3) 9月末に卒業される方は、履修はできますが単位修得ができません。
- 4) 本科目ではスクーリング単位は修得できません。
- 5) 本科目の単位修得を希望しない場合は、履修登録をしなくても受講可能です。
- 6) 本科目とは別に講義形式の国家試験対策講義（有料）を開講予定です（単位修得不可）。2017年度の社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験対象者に直接郵送にてご案内します。
- 7) その他、申込方法等の詳細については2017年3月発行の『With』でご確認ください。

■科目の内容

2009（平成21）年度から社会福祉士が、2012（平成24）年度からは精神保健福祉士の国家試験の科目区分が変更になりました。通信教育部で学ぶ多くの方は、日々仕事や家事に従事されています。そのなかで、受験勉強に割ける時間も限られています。受験科目の膨大な学習内容のすべてを理解していくことは、限られた時間の中では相当の努力を要します。確実に得点を重ねるためには、重点的に学習すべき要点を確実に抑えながら、効率よく学習を進めていくことが大切になります。

■本講義の進め方

本講義は、自宅学習（模擬小テスト）で構成されています。

●模擬小テストについて

7～12月の毎月1回全6回、受講者に模擬小テストを郵送し、解答マークシートを返送していただき採点するというものです。

内容は1科目あたり3題ずつ（共通科目33問、社会福祉士専門科目24問、精神保健福祉士専門科目21問）で、特講・社福5は計57問、特講・社福6は計54問となります。

国家試験本番までに毎月1回のペースで模擬小テストを受けることで、①弱点科目の特定（重点的に学習すべき科目を明らかにし学習の効率化を図る）、②確実に得点するための基礎知識の獲得、③制限時間を設けることにより本番の解答スピード（1問：約1分30秒）に慣れる、ことを目指します。

■到達目標

受験生が自分にあった学習方法を見つけ、それぞれのペースで安定して受験勉強に取り組みながら、社会福祉士・精神保健福祉士国家試験に合格できる。

■在宅学習19のポイント

回数	テーマ	内容
1	人体の構造と機能及び疾病	「医学一般」の教科書および市販の参考書・過去問題集・模擬問題集等の内容から頻出事項を把握する。
2	心理学理論と心理的支援	「福祉心理学」の教科書および市販の参考書・過去問題集・模擬問題集等の内容から頻出事項を把握する。
3	社会理論と社会システム	「福祉社会学」の教科書および市販の参考書・過去問題集・模擬問題集等の内容から頻出事項を把握する。
4	現代社会と福祉	「社会福祉原論（職業指導を含む）」の教科書および市販の参考書・過去問題集・模擬問題集等の内容から頻出事項を把握する。
5	社会調査の基礎	「社会調査の基礎」の教科書および市販の参考書・過去問題集・模擬問題集等の内容から頻出事項を把握する。
6	相談援助の基盤と専門職	「社会福祉援助技術総論」の教科書および市販の参考書・過去問題集・模擬問題集等の内容から頻出事項を把握する。
7	相談援助の理論と方法	「社会福祉援助技術論 A」「社会福祉援助技術論 B」の教科書および市販の参考書・過去問題集・模擬問題集等の内容から頻出事項を把握する。
8	地域福祉の理論と方法	「地域福祉論」の教科書および市販の参考書・過去問題集・模擬問題集等の内容から頻出事項を把握する。
9	福祉行財政と福祉計画	「福祉行財政と福祉計画」の教科書および市販の参考書・過去問題集・模擬問題集等の内容から頻出事項を把握する。
10	福祉サービスの組織と経営	「福祉経営論」の教科書および市販の参考書・過去問題集・模擬問題集等の内容から頻出事項を把握する。
11	社会保障	「社会保障論」の教科書および市販の参考書・過去問題集・模擬問題集等の内容から頻出事項を把握する。
12	高齢者に対する支援と介護保険制度	「高齢者福祉論」「介護概論」の教科書および市販の参考書・過去問題集・模擬問題集等の内容から頻出事項を把握する。
13	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	「障害者福祉論」の教科書および市販の参考書・過去問題集・模擬問題集等の内容から頻出事項を把握する。
14	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	「児童・家庭福祉論」の教科書および市販の参考書・過去問題集・模擬問題集等の内容から頻出事項を把握する。
15	低所得者に対する支援と生活保護制度	「公的扶助論」の教科書および市販の参考書・過去問題集・模擬問題集等の内容から頻出事項を把握する。
16	保健医療サービス	「保健医療サービス論」の教科書および市販の参考書・過去問題集・模擬問題集等の内容から頻出事項を把握する。
17	就労支援サービス	「就労支援サービス論」の教科書および市販の参考書・過去問題集・模擬問題集等の内容から頻出事項を把握する。

回数	テーマ	内容
18	権利擁護と成年後見制度	「福祉法学」の教科書および市販の参考書・過去問題集・模擬問題集等の内容から頻出事項を把握する。
19	更生保護制度	「更生保護制度論」の教科書および市販の参考書・過去問題集・模擬問題集等の内容から頻出事項を把握する。

※社会福祉振興・試験センターのホームページから科目ごとの出題基準（大・中・小項目）を確認し、市販の受験参考書等から頻出項目を確認した上で、頻出項目の内容から学習する。併せて合格基準や試験時間、出題形態（事例問題等）を把握する。

【参考 URL】 <http://www.sssc.or.jp/shakai/kijun/attachment.html>

■ 「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「基礎的知識」「専門的知識」を身につけてほしい。

■ 評価基準

全6回分のうち5回以上の模擬小テストを提出してください（白紙や全て同じ番号等での解答は不可とします）。